

福祉避難所体験キャンプ 報告書

鳥栖市手をつなぐ育成会

協力団体：鳥栖市、鳥栖市社会福祉協議会

福祉避難所体験キャンプ実施日：西暦 2019 年 8 月 3 日～4 日

報告書作成：西暦 2020 年 2 月 12 日

【目次】

1. はじめに	- 4 -
2. 災害想定	- 4 -
3. 参加団体及び参加者	- 5 -
3.1 実行委員会について	- 5 -
3.2 当日の参加団体及び参加者について	- 5 -
4. 避難所キャンプ実施内容	- 6 -
4.1 スケジュール	- 6 -
4.2 具体的な実施内容	- 7 -
4.2.1 福祉避難所キャンプ実施会場	- 7 -
4.2.2 会場のレイアウト	- 7 -
4.2.3 その他の準備	- 8 -
4.2.3.1 運営側の準備	- 8 -
4.2.3.2 参加者への準備依頼事項	- 9 -
4.2.4 スタッフ集合（キャンプ当日）	- 9 -
4.2.5 受付	- 10 -
4.2.6 寝床づくり	- 10 -
4.2.6.1 段ボールベッドづくり	- 10 -
4.2.6.2 テントによるスペース確保	- 11 -
4.2.7 食事づくり	- 12 -
4.2.8 食事	- 13 -
4.2.9 余暇活動（レクリエーション）	- 13 -
4.2.10 就寝	- 14 -
4.2.11 起床（ラジオ体操）	- 14 -
4.2.12 朝食	- 14 -
4.3 振り返り・意見交換	- 14 -
5. アンケートからの意見	- 16 -
6. 考察	- 23 -
6.1 考察の見かた	- 23 -
6.2 福祉避難所の周知について	- 23 -
6.3 避難所の受付	- 24 -
6.4 食事について	- 24 -
6.4.1 本人（本人家族）の準備するもの	- 24 -
6.4.2 受け入れ側（避難所）として、考慮すべきこと	- 24 -
6.5 寝床づくり（居住スペースの確保）について	- 25 -
6.5.1 本人（本人家族）で準備するもの	- 25 -
6.5.2 受け入れ側（避難所）として、考慮すべきこと	- 25 -
6.6 余暇、遊びについて	- 26 -

6.7	その他の施設設備、準備品等	- 27 -
7.	今後に向けて	- 27 -
8.	謝辞	- 28 -
9.	別紙	- 29 -
9.1	別紙 1（アンケート）	- 29 -
9.2	別紙 2（関連記事）	- 30 -

1. はじめに

令和元年 8 月 3 日～4 日にかけて、鳥栖市社会福祉協議会及び鳥栖市のご協力をいただき、鳥栖市社会福祉会館にて、福祉避難所キャンプを実施しました。避難の対象者は、主に鳥栖市手をつなぐ育成会の会員 7 名に参加いただき、うち 5 人については、保護者もスタッフを兼ねて同伴して参加していただきました。

鳥栖市には、福祉避難所として、鳥栖市社会福祉会館、中央老人福祉センター、ひかり園の 3 か所が指定されていますが、実際の災害時にどのような状況が想定されているのか、不明な点も多く、特に準備ができているというわけではない。また、福祉避難所を利用する対象となる障害を持つ方も、その障害の程度や違いにより、必要とされる準備は、数えきれないほどのケースが想定され、備えそのものについて、どうしてよいかわからない状況が存在しています。一方、障害のある人にとって、初めての経験はそれだけでハードルが高く、そもそもいざという時に避難できない可能性もあります。そこで、実際に避難体験をしてみることで「福祉避難所としての課題を洗い出す」とともに、「障害のある人にとって、避難の際に必要な準備及び体験を通した見通しをつけること」を目的として、この避難所キャンプが企画され実施されました。

この福祉避難所体験キャンプを通じて、受け入れる側の福祉避難所及び避難する側の当事者のそれぞれで様々な課題が浮き彫りになりましたが、この 1 度だけのキャンプでは見通せない様々な課題が残っていることも感じました。この報告書は、今回の経験を記録として残すことと共に、これからの備えについても、繰り返し繰り返し、継続して考えていかないといけないことなどをこの報告書で考察させていただきたいと思います。

2. 災害想定

福祉避難所キャンプを実施するにあたり、災害の想定を以下のように設定して、実施しました。

2019 年 8 月 1 日(木)に上陸した台風により、家屋の倒壊や浸水など、市内全域において甚大な被害が発生。各指定避難所にも多数の避難行動要支援者が避難したが、帰宅が早急には叶わない被災者も一定数見込まれたため、3 日(土)15 時より福祉避難所を開設することとなった。

鳥栖市社会福祉会館では電気・水道は復旧している。自家用車を使った避難は可能。

＊開設時に避難所にある物資

炊飯器（2 升炊き）、ハイゼックス、米 6 kg（おかずの一部は協定先のスーパーから提供）

使い捨てトレイ、プラスチックスプーン

ガムテープ、ベッド及びパーティション用段ボール（100 箱）

水（1 人 1 L）、等

＊参加者が持参する物

避難所にある物資以外に必要なと思われるもの

例) 食料 (おかず)、簡易テント、毛布、清潔用具、遊べるもの、等

3. 参加団体及び参加者

3.1 実行委員会について

今回の企画は、鳥栖市手をつなぐ育成会の中で、福祉避難所体験の企画が提案されたところから始まりました。そこで、会のこの企画の代表（芹田洋志氏）より、鳥栖市及び鳥栖市社会福祉協議会に声をかけさせていただき、4月から8月の実施まで、数回の会議を重ね実施させていただきました。

会議の構成メンバーは、鳥栖市から総務課庶務防災係、社会福祉課から障害福祉係と地域社会福祉係、そして鳥栖市社会福祉協議会からは常務及び課長を含め数名、鳥栖市手をつなぐ育成会からは、役員5名のメンバーが会議に参加し、今回の企画を検討しました。会議では、発案者の芹田氏が災害想定を提起し、その想定に沿って、受け入れ施設である社会福祉会館で何を準備すればよいか、鳥栖市として何を準備できるか、当日の実施体制及び準備品などを討議しました。

最終的には、このときのメンバーが避難所キャンプの運営側のスタッフとなり、手をつなぐ育成会のメンバーは当事者（障害者の保護者もしくは当事者）として、このキャンプに参加しました。

正式な形での実行委員会として立ち上げたわけではありませんが、芹田氏の声掛けから上記の構成メンバーが実質的な実行委員会のメンバーとなって、この体験キャンプの企画・構成を作っていました。

3.2 当日の参加団体及び参加者について

今回の福祉避難所キャンプへの当事者については、様々なタイプの福祉的支援を必要とする方が想定され、お声掛けが可能な団体も多くあります。また、参加者募集という方法も考えられましたが、最終的には、小規模（本人ベースの参加が5-10名程度）で実施することになりました。理由は、参加者、参加団体が大きくなると、企画通りの運営、コントロールができなくなること、今回は試験的な取り組みであり、「まず、やってみる」ところに重点を置くこと、そして、この企画も今回の1回で終わるのではなく「継続して実施する」という想定をもって、参加者（当事者としての参加者）については、人数を絞って実施することになりました。

最終的に、今回については、手をつなぐ育成会の会員を中心として、本人ベースで5～10人程度の参加を想定して、参加する当事者においては、こちらから参加をお願い（指名）する形で参加していただきました。

今回の福祉避難所キャンプへ参加したメンバーは、以下の通りです。

1) 鳥栖市手をつなぐ育成会：16名

本人：8人、保護者：7人、ヘルパー：1名（合計：16名）

参加者	性別	年齢	障害の種類	備考
Aさん	男	23	自閉症スペクトラム	保護者同伴(父)
Bさん	男	24	自閉症スペクトラム	保護者同伴(母)
Cさん	男	23	自閉症スペクトラム	保護者同伴(母)
Dさん	男	47	肢体不自由	単独
Eさん	男	46	肢体不自由（車椅子）	ヘルパー同伴
Fさん	男	10(小4)	肢体不自由（車椅子）	保護者同伴（父、母）、
Gさん	女	7(小1)	知的障害	保護者同伴（父、母）
Hさん	女	17(高3)	知的障害、両下肢機能障害	保護者同伴(母)

2) 鳥栖市社会福祉協議会：5名（運営スタッフとして）

3) 鳥栖市役所：合計4名（運営スタッフとして）

総務課庶務防災係：2名

社会福祉課地域福祉係：1名

社会福祉課障害者福祉係：1名

4) 見学者（及び段ボール寝床づくりへ体験参加）：9名

佐賀県議会議員：1名

日本赤十字社佐賀県支部：1名

佐賀県立中原特別支援学校：1名

鳥栖市民生委員・児童委員：1名

総合相談支援センターキャッチ：2名

その他：3名（当事者、保護者）

4. 避難所キャンプ実施内容

4.1 スケジュール

体験キャンプ当日のスケジュールは、本人、当事者たちに、“慣れてもらう”という趣旨も入れ、楽しく、気楽に過ごせるお泊りキャンプを想定したプログラムとしました。

8月3日(土)	
14:30	スタッフ集合 会場準備等
15:00	受付 - 避難者の名前、住所等を世帯毎に把握。 - 要望事項のヒアリング。
15:30	寝床をつくろう、夕食をつくろう 参加者・スタッフの自己紹介

	・ ハイゼックスを使った炊飯体験 ・ 各自が持参した物を使って居住スペースの準備。 ・ 段ボールベッド、パーティションの作成
18 : 00	夕食 各自が持参したおかずと提供されたご飯で食事。
19 : 30	夜を楽しもう DVD鑑賞（集会室）、おもちゃ（児童センター）、などで各自過ごす。
21 : 00	消灯 併設された体育館内で、設置した居住スペースにて、各自就寝。 エアコン使用。
8月4日（日）	
7 : 00	ラジオ体操
7 : 30	朝食 各自が持参した食事(カップ麺等)、前日の余ったご飯等で朝食。
8 : 30	振り返り ・ 感想・意見交換 ・ アンケートの実施

4.2 具体的な実施内容

4.2.1 福祉避難所キャンプ実施会場

福祉避難所キャンプ実施会場：鳥栖市社会福祉会館（佐賀県鳥栖市元町1228-1）

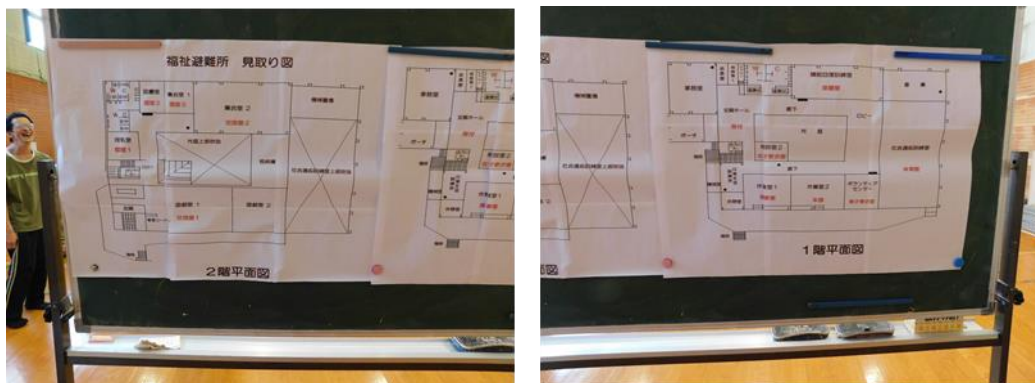
鳥栖市内で指定されている3か所の福祉避難所のうち、鳥栖市社会福祉会館を会場として利用しました。会場となった鳥栖市社会福祉会館には、入口に福祉避難所であることを示す表示があります。



4.2.2 会場のレイアウト

会場全体のレイアウトを作成し、各部屋の活用方法について、掲示しました。

このレイアウトを表示し、スタッフの打ち合わせでもこの表を用いて、利用方法等を確認しました。



また、各部屋の入口には、下記のような表示を行いました。



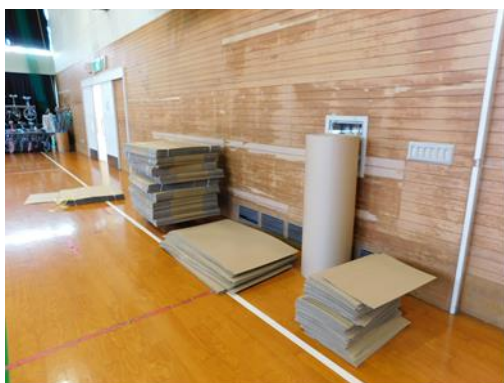
4.2.3 その他の準備

4.2.3.1 運営側の準備

寝床づくりのダンボールを鳥栖市と協定を結んでいる（株）クラウン・パッケージ様からご提供いただきました。

組み立てに必要なと思われる工作具も用意しました。参加者全員で、工作するとカッターナイ

フ等が足りない状況も発生しましたが、道具を持参してきて来ているスタッフもいましたので、その道具も活用できました。



上記のほか、鳥栖市社会福祉協議会が準備した、食事時の準備は下記の通りです。（前提通り）

- 炊飯器（2升炊き）、
- ハイゼックス、米6kg（おかずの一部は協定先のスーパーから提供）
- 使い捨てトレイ、プラスチックスプーン等。

4.2.3.2 参加者への準備依頼事項

参加者へは、必要と思われる食事、寝床及び余暇活動用のものについては、各自準備して持参するよう依頼しました。

食事用としては、カップ麺、缶詰、レトルト食品他を夕食分、朝食分をそれぞれ用意するよう依頼しました。

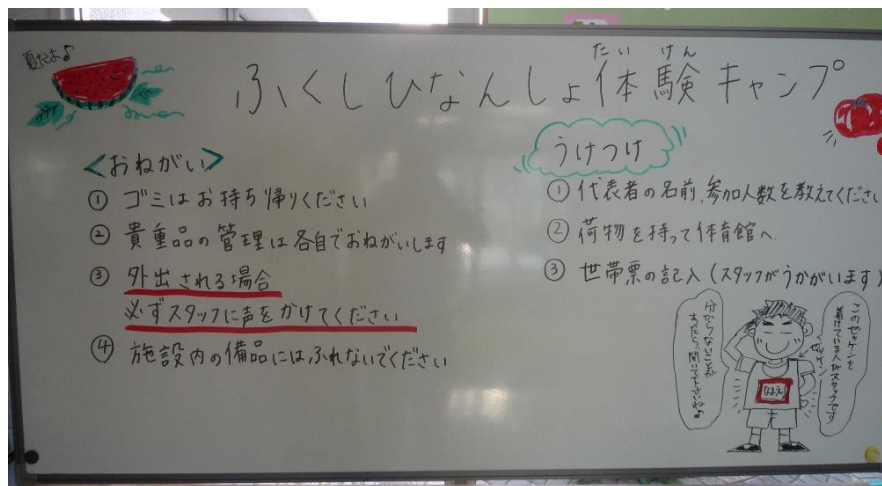
寝床用としては、テント（室内で利用できるもの）、毛布等を、

余暇活動用としては、各自（障害者本人及びきょうだい児）の遊具等。

また、災害発生後、48時間後を想定しているため、ライフラインのうち電気、水道については、復旧しているという想定で、通電のいるものについても持参可能として、各自に準備をお願いしました。

4.2.4 スタッフ集合（キャンプ当日）

14:30 にスタッフ（鳥栖市、鳥栖市社会福祉協議会及び手をつなぐ育成会の役員）が集合し、その日の動きの大まかなスケジュール、持ち込んだ資材（段ボール）、施設で準備できているものなどの確認を行いました。スタッフ及び参加者への注意事項の確認を行いました。



4.2.5 受付

受付のテーブルを設置し、参加者の受付に参加者に付番する。また、参加者の持参物の体育館への搬入が終わったら、世帯表を記入する段取りで進めました。写真は、受付のテーブルの写真及びゼッケン（スタッフの名前が書かれている）を付けたスタッフが、世帯表を記入しているところです。

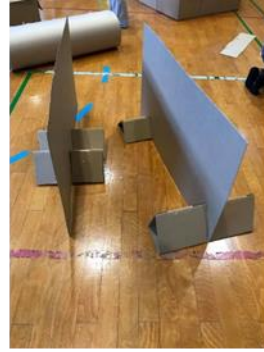


4.2.6 寝床づくり

4.2.6.1 段ボールベッドづくり

鳥栖市と協定を結んでいる市内の企業より提供をうけた段ボールを使い、ベッド及びパーテーション作り体験を行いました。

箱の中に、筋交いを入れることで、かなり丈夫なベッドになりました。



4.2.6.2 テントによるスペース確保

テントを持参した参加者は、体育館内にテントを設置しました。

体育館の中で、場所の指定は特に行わず、端から順に場所を決めていき、テント及び各自の就寝スペースを確保してもらいました。

テントは自立型であれば体育館内でも使用できます。また、大きさについては、2-3 人用から最大 4 人用テントぐらいが、適当な大きさのようでした。

夏の体験キャンプとなりましたので、風通しのよいタイプが使い勝手としては良かったようです。



4.2.7 食事づくり

食事作りでは、ハイゼックスを使った炊飯体験を行いました。



水の加減が難しく、表示通りに炊くとやや硬めのごはんになりました。水加減については、練習がいるようです。

この後の食事で、ハイゼックスで炊いたご飯をレトルトカレー(備蓄品)及び持参したおかずで頂き夕食となりました。

4.2.8 食事

実際の食事では、上記のハイゼックスのごはん、カレー以外に、各自カップ麺、缶詰、レトルト食品等を参加者が持参し、食事しました。

写真は、食事の時間の光景です。持参したレトルトのおでん、カレーを食べない人はカップ麺、ハイゼックスで炊けたごはん、設置された炊飯器で炊いたご飯を頂きました。市が協定を締結しているコープ佐賀生活協同組合様より本訓練のためにいただいたスープ等も用意してありました。



4.2.9 余暇活動（レクリエーション）

食事の後は、参加した障害者本人及びきょうだい児たちのため、就寝時間までの間を楽しく過ごしてもらうための時間と準備をさせて頂きました。

障害を持つ子供、人にとっては、初めていくところ、初めてすることが、最もストレスを感じるアイテムになります。こういうキャンプに、少しでも気楽に参加してもらう、いざ避難というときに、少しでもスムーズに避難できるように、レクリエーション(娯楽)のブースを設けました。ここでは、DVDを何本か借りてきて、子供が好きそうなアニメ等を上映しました。(トムとジェリー他)

自閉症スペクトラムの子供(本人)も何人かいたため、そもそも趣向がばらばらであるため、みんな一緒に鑑賞することはありませんでしたが、この部屋のほか、遊具を置いている部屋もあり、そちらも開放し、避難所キャンプではありますが、少しでも楽しく過ごしてもらうようプログラムを構成しました。



4.2.10 就寝

21 時消灯とプログラムではしていましたが、実際はもう少し遅かったと思います。

消灯後は、そのまま自分の寝床スペースに戻り、そのまま就寝しても構いませんでしたが、自由時間として、本人、子供たちは、自分のスペースで好きな遊びをしながら時間を過ごしました。

保護者及び運営の方たちも、しばらく場所を変えて懇親の場（食堂）ができていました。

4.2.11 起床（ラジオ体操）

起床は、皆さん比較的早い時間に起床されていたと思います。午前 6 時過ぎには、参加者のほぼ皆さんが起床されていました。

午前 7 時、ラジオ体操の音楽を鳴らしみんなでラジオ体操をしました。

4.2.12 朝食

午前 7 時 30 分から参加者全員が食堂に集まり、朝食をとりました。

ここでも、各自が持参した食事として、レトルト、カップ麺、缶詰に加え、昨日炊いたご飯の残りをおにぎりにして、みんなで食べました。

4.3 振り返り・意見交換

朝食終了後、終了後、今回の福祉避難所キャンプ全体を通しての振り返り、意見交換を行いました。振り返りについては、「受付」、「夕食づくり」「夕食」「寝床づくり、スペース確保」及び「その他」に分けて振り返りを行いました。それぞれの意見をまとめると、以下のようなものでした。

それぞれのステージで、細かい気づきがあり、実際に災害にあったときの準備及び今後の体験キャンプ実施に向けて参考となる意見、考えなければならないことが多数意見として出されました。

1) 「受付」について

- 受付時に世帯表への記入及び付番等を行ったが、家族がいたり荷物搬入があったり、事

前に打ち合わせた通りにできなかった。最初の注意喚起(アナウンス)が足りなかった。

2) 「夕食づくり」及び「夕食」について

- ハイゼックスの炊飯を体験したが、コメの量、水分量に基準はあるものの、うまく炊くためには、更に詳しい基準、訓練が必要と感じた。
- 炊事場から続いた部屋があり、食事の場所としては使いやすかった。
- 発達障害の人など、周囲の人が気になり食事が食べられないこともあるので、ついたて等の設備があればよいと思った。
- 実際は、施設の外も使えると思うので、調理の幅は広がると思う、など。

3) 「寝床づくり」について

- 今回は総勢で 25 名（うち本人 8 名）の宿泊体験であったが、福祉避難所では、一人当たり 4m²が必要スペースとして想定されているが、この施設でも収容数は 144 名とされているので、実際はさらに狭くなることを考える必要がある。
- 寝床スペースの確保の際は、車いすの通れるスペースの確保も必要となる。
- 運営側の人の寝床スペースも予め決めておく必要がある。
- 家族避難の場合、テントが有効だと思った。
- 夏の実施でエアコンをつけての就寝であったが、テントは暑く感じられた。一方、テントを使用しない場合、寒いという意見があった。など。
- 段ボールのベッドは、考えていたより丈夫でした。
- 今回は知っている人ばかりだったので、気兼ねせずに済んだが、実際は緊張することが多いと思う。
- 避難スペースについては、目安が決められておくと分かりやすいと思った。など。

4) 「その他」について

- 普段に近い環境のものを持ってきたので、空き時間も問題なく過ごせた。
- パーテーションづくりは難しかった。
- 医療的ケアの必要な避難者がいた場合、専門で受け入れてくれるところは？（若楠療育園が指定されているのでは？）
- 災害時の指定医療機関は？（鹿毛病院が指定されている。）
- 靴は、各自保管が良いと思う。など。

5. アンケートからの意見

福祉避難所を終えて、参加者全員でアンケートを取りました。
アンケートに答应ていただいたメンバー構成は以下の通りです。

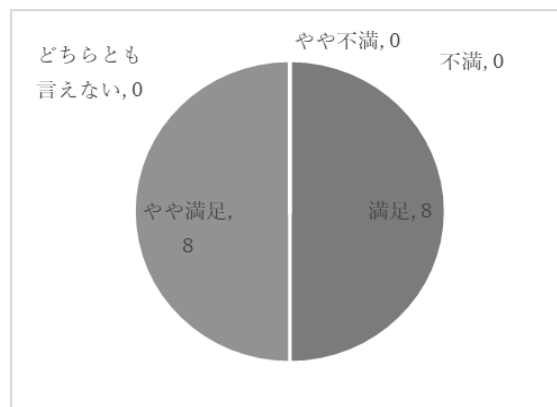
鳥栖市手をつなぐ育成会関係：7名

鳥栖市役所：4名

鳥栖市社会福祉協議会：5名

障害当事者に同行したヘルパー：1名（合計：17名）

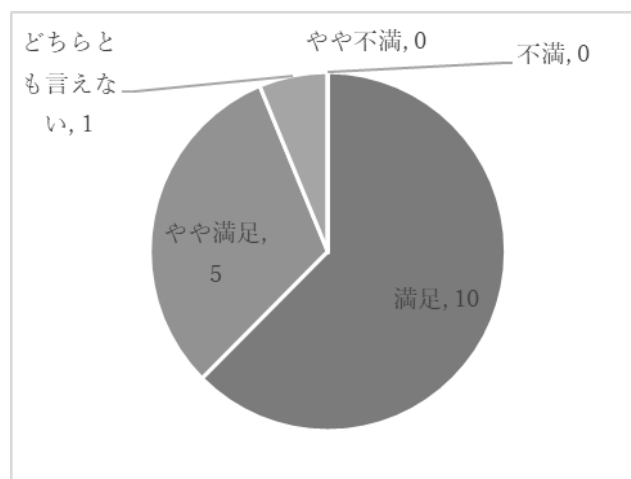
Q1.「寝床をつくろう」等、避難スペースの確保は思うようにできましたか？



参加当事者7名(6家族)及び運営スタッフの全員が、寝床スペースの確保には問題なかったとしています。

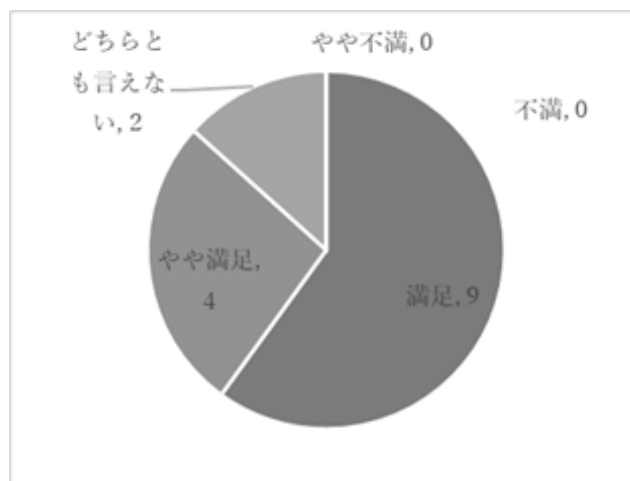
体育館に全員が就寝しましたが、当事者は、会場到着直後からスペースの確保ができたことで、問題はなかったように思います。運営スタッフは、参加当事者の様子を伺うあまり、自分自身のスペースの確保が遅れていたようです。実際の災害時及び次回以降継続して体験キャンプを実施する場合、運営スタッフの休むスペースも予め計画しておく必要がありそうです。

Q2.「夕食をつくろう」等、食事は満足されましたか？



食事については、概ね楽しくとれたようです。やや不満、やや満足の不足している点としては、みんなで集まって食べることができない子供や障害がある人（自閉症スペクトラムや精神障害）などは、苦手な人も想定されるため、その対策が今回は無かったこと、食事の内容について、準備できるものが、実際に体験することで分かり、ほかにも準備できるものがあったことなどが、気づきとしてあったものと推察されます。

Q3. 「夜を楽しもう」等、空き時間はうまく過ごせましたか？



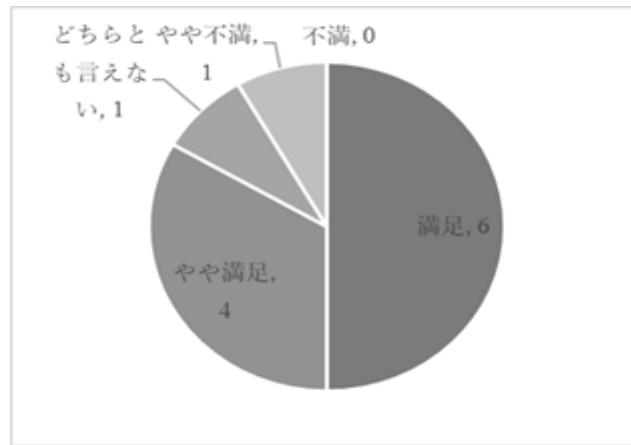
今回の福祉避難所体験キャンプでは、厳しい環境を設定してしまうと、子供や障害者本人が、避難所そのものに拒絶反応を示してしまうようになってしまうことも考えられます。

実際に避難するときを想定し、子供や障害を持った方に、「あそこに行くよ」と促した時に、スムーズに移動ができることに配慮し、子供が遊べるスペースを作りました。

具体的には、夜を楽しむ準備として、DVD の上映会場及び社会福祉会館にある遊具で遊べる会場及び紙芝居を愉しめる会場等、2 か所設定しました。きょうだい児、本人を含め、1 か所にとどまることなく、空いた時間は、自分の居住スペースを含め、自由に動き回って、楽しく過ごしてくれていたようです。どちらともいえない、やや満足の不足点としては、障害の特性にもよりますが、「自分にあった遊びがなかった」ということのように推察します。

また、夜の自由時間については、各自持参した遊び道具(タブレット等)でも、時間を過ごしていました。

Q4. 消灯後、睡眠は十分取れましたか？

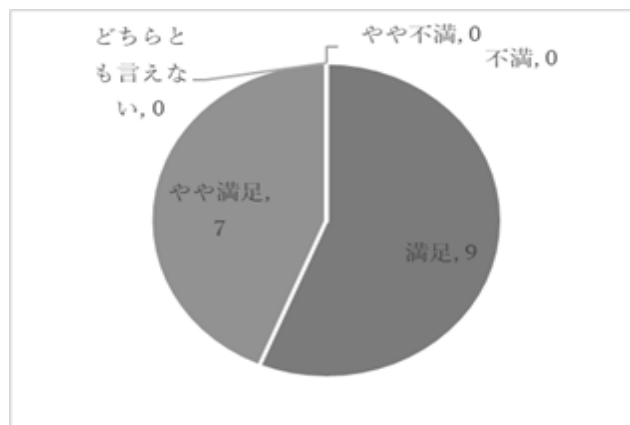


体育館での睡眠になりますが、真夏の夜なので、エアコンはつけての就寝環境としました。

テントで就寝する方は風通しが悪く暑かったという意見がある一方、就寝がテントでなく段ボールのベッド等である場合、「寒かった」という意見もありました。

就寝時の環境調節は難しい面がありました。

Q5. キャンプ全体を通して、内容にどの程度満足されましたか？



今回の福祉避難所体験キャンプは、ほぼ未体験の状態からの準備、実施であったため、参加者各自、各団体に様々な気づきがあったようです。やや満足の減点部分は、シンプルに、十分な準備ができていたか、満足のいく運営だったか、という点になると思いますので、次回以降、参加者全員が、その不満を改善していけるものと推察します。

以下は、アンケートの自由記載の質問とコメントです。頂いた意見をそのまま記載します。

Q6. 今回参加して、良かったことは何ですか？

<手をつなぐ育成会関係>

- ・ いくつか用意した防災グッズを使ってみることができた。介助者と宿泊する際に寝床の位置関係に工夫が必要なが分かった。(同室の他の避難者の迷惑にならないように介助者を起こすために)
- ・ 全体をシュミレートできた。見学者も多かった。改めて準備しなければいけないものを考

えさせられた。今回の体験に参加した人たちだけでなく、色々な人に関心をもってもらった。

- ・避難を実感することができたこと。
- ・日頃からの備えておいた方が良い物を考える機会になった。又、子ども達を過ごさせていく上で準備しておく物が分かったと思う
- ・実際に体験して必要な荷物の準備が想像できました。
- ・福祉避難所の生活について家族でイメージが持てたところが良かったです。

<鳥栖市社会福祉協議会>

- ・実際に参加して、シュミレーションできたのは良かった。やらないと問題点も分からないので。
- ・実際に体験参加することで自分達がどのように動かなければならないかイメージしていたことがより具体的になりました。
- ・今後の課題や実際災害が起こった際について現実的に考えることができました。今までは避難所に行った経験もなく意識が低かったと思います。
- ・初めての事でうまく運営できたのか分からない。後日、ああすれば良かったのではと思う事が出てくるのではないかな。
- ・打ち合わせをしても想定外の事が有り、その時々判断が必要だと実感し、スタッフ間でも振り返り、今後に生かせる事、又、その気づきに対応する手段を検討して行きたい。

<鳥栖市役所>

- ・自分が思いつかない点に気づきがあり大変勉強になりました。同時に避難所運営の難しさも感じました。
- ・参加の方から「実際起こった時に自分も何かしなければ」という意見を聞き、「避難所運営についてはそこにいる人全員で考えるもの」という意識を持っていただけて良かった。
- ・訓練の必要性を実感しています。頭で考えているだけでは対応できないことが分かったことがよかったと思いました。
- ・市として福祉避難所を開設した実績がほとんどなく、避難所運営側として携わったこともほとんどなかったため、貴重な経験となりました。

<ヘルパー>

- ・ヘルパーとして避難所で支援を行う場合に準備しておくべきこと等気付くきっかけとなった。

Q7.もし災害が起こった際、不安なことは何ですか？

<手をつなぐ育成会関係>

- ・ 介助者の確保。停電の際の電動車椅子バッテリー充電。
- ・ 電気、親がいない（不在）時の子どものケア。
- ・ 避難所までの足。
- ・ 場合によって異なりますが、自分一人で荷物を持って二人の息子がパニックにならない様に連れて行けるのだろうか。避難する段階で支援が必要となる場合があるのではないかと思います。
- ・ 実際に荷物を持った避難所まで移動できるか心配。
- ・ 避難所のトイレが少ない（女性）。（避難者の数が多い場合、間に合わずに失禁の可能性がある）
- ・ 冬場の場合、感染症が心配。
- ・ 福祉避難所開設の連絡について、台風時等、町の避難所開設の連絡はあるが、福祉避難所についての連絡はない。
- ・ 慣れない環境に不安は大きいですが、母が一緒であれば生活全般について落ち着いて対応は可能
- ・ 医療ケアの物品について。食事形態について（ミキサー使えない時）。今日は一泊でもすごい荷物だったので、荷物を持って2人子供をつれてこれるか(車など動けない時)。短時間子供から離れる時の見守りがほしい。
- ・ 福祉避難所に避難する対象者（障害者、認知症？、肢体不自由、高齢者等）はどのように受け入れを判断するのか？

<鳥栖市社会福祉協議会>

- ・ 今回はスタッフが多かったので、対応がやりやすかったが、実際に災害が起こった時は、少人数（2名とか）での対応になると思うので、そこが不安。
- ・ どのような人員配置になるのかが不明でありその限られたスタッフで運営していくことが出来るのかは不安に感じます。
- ・ 振り返りの中でも出ていましたが、看護学校や医療機関等と事前に連携しておく必要があるのではないかと感じました。
- ・ たくさんの方が避難してきた際の聞き取り（世帯表の記入等）はうまくいくか不安です。今回は事前に何度も打ち合わせもあり参加者も限られていたので実際に災害が起こったら管理を徹底させなければならないと思いました。
- ・ 今回自分の食べる物は持参して来てもらった。災害時にはそれができないことが想定される。今後備蓄していくことになるので、一般避難所とは違う対応が必要になると思うが、可能なのか。
- ・ 避難されて来た方々の不安の軽減・誘導・対応・体調の把握・基礎疾患への対処等々考えると数えきれない・・・。

<鳥栖市役所>

- ・ 職員の立場としてはどのようなアナウンスが必要になるのかなども不安になりました。（どんな用意が出来るのかはもちろん不安ですが・・・）
- ・ 今日はイベント的な要素が大きかった為、事前準備及びスタッフも多かったが、実際の時にどれだけ人員が確保できるかが問題。
- ・ 実際はもっと余裕がなくなっていると思うので、避難者に対して必要なアナウンスや対応が難しくなると思うと不安になります。
- ・ 市の避難所運営の人員確保、技術の向上。

<ヘルパー>

- ・ ヘルパーとして避難所に出向くのではなく、私達自身も避難している際の支援がどういったものになるのか。

Q8.その他、ご意見があればお書き下さい。

<手をつなぐ育成会関係>

- ・ 運営側の皆さんの準備のおかげで、思っていたより快適に過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・ 別のパターン（障害）の受け入れで、更に情報を集めて欲しい（来年以降）。
- ・ 各人（家庭）のスペースを確保すると収容人数に限られる。収容可能人員の各避難所間の情報共有が必要。
- ・ 今回は色々な意味で良い経験になりました。備えて置く物、必要な物も今後考えていきたいと思っていますし、訓練を重ねる事は息子たちにとっては経験となるので今後も必要だと思いました。
- ・ 実際の災害時にはみんなで協力しないといけないと思います。受付時に職業（医師・看護師・医療職・福祉職など）の把握ができればお願いしやすいかも？ ボールの上で寝ても体は痛くなかったけど、寝返りがきつそうでした。シーツも必要だと思いました。
- ・ 実際災害が起きた時は今回より厳しい環境なのだろうと思いますが、ここで過ごしたイメージがあるというだけで、安心感、自信につながったと思います。貴重な経験をありがとうございました。

<鳥栖市社会福祉協議会>

- ・ 利用者もスタッフもこういったシミュレーションをしておくことは必要だなと思いました。2日間お疲れ様でした。
- ・ 今まであまり実際のことは想定することもなく、実際どんな状況になるのか想像もつきませんでした。今回のキャンプでより身近に実際起こった時のことや、避難生活が長期になった場合など、初めて考えるよい機会となりました。就寝場所はみなさん各自スペース

を確保できているように思いました。もっと人数が増えるとスペースの確保もスタッフがもっと関わらないといけないと思いました。

- ・ ①当事者の声が聞けて良かった。②実際に災害が発生した場合、対応が今回のようにできるのか、あわてるのではないか。訓練と誰でも例えばボランティアでも対応できる対応マニュアルが必要と思う。
- ・ スタッフの役割分担があったのはとても大切。実際の時も早急な役割分担が大切。寝床をつくろうでは事前の準備（作り方の学習）が生かせたと思う。

<鳥栖市役所>

- ・ 「実際にやってみる」は本当に大切だなと思いました。夕食は食べるところから参加しました。カレー美味しかったです。夜は帰宅したため寝床をつくろうは不参加でした。
- ・ 防災は少人数ではなく、多くの人で取り組むものである為、次回以降に続けるならば体験者が経験を伝えていくことがいいと思います。
- ・ 大変貴重な体験をさせていただきありがとうございました。今回の訓練で経験したことを、今後の取組に活用させていただきたいと思います。
- ・ 受付でお待たせすると、家族や荷物の負担があるため、避難所の中で聞きとりを行い詳細な情報を確認することにしたが、100人以上にもなった場合にそれが実際にできるか？受付で人数構成や配慮すべきことを聞いて、避難所の中の避難者世帯の配置を決めて中に入ってもらう方が良かったのはというのが解決していない悩みです。

6. 考察

6.1 考察の見かた

今回の福祉避難所体験キャンプは、鳥栖市としても初めての体験であり、全国的な前例も少なく、参考にする情報が少ない中、実施させていただきました。従って、模範になるような体験事例はなく、今回の事例はすべて、今後の参考として捉えていただければと考えています。

また、今回の避難所体験キャンプは、避難する障害者についても、手をつなぐ育成会関連の小さなグループからの参加者で実施した試験的な事例です。この体験キャンプを参考に、全国各地で、同様の取り組みを実施していただき、少しでも多くの障害を持つ方たちが安心できるよう、何らかの形で取り組んでいただき、より良い避難、よりスピーディな復旧ができる支援の仕組みができることを祈ります。

我々も、この体験を通じて、繰り返し、繰り返し、このような体験キャンプ実施していくことで、福祉避難所としてのあるべき姿を作っていくことができるものと考えています。また、障害をもつ当事者（及び当事者の家族）が、事前の準備を少しでも万全にできるようになることを願って、この報告書をまとめさせていただいております。

今回の体験キャンプを通して、上記の記録とは別に様々な意見も寄せられています。それらの意見も踏まえ、福祉避難所の運営について、周知の段階から受け入れ、実施までのプロセスに沿って、以下に考察していきます。

6.2 福祉避難所の周知について

鳥栖市では、平成31年4月に、鳥栖市の防災マップが配布され、そこに福祉避難所として3か所（鳥栖市社会福祉会館、ひかり園、中央老人福祉センター）がそれぞれ指定され、公表されています。しかしながら、周知という点では、受け入れ側の準備も十分に整っていないことも理由と考えられますが、市民への周知は十分とは言えないと思います。

今回の体験キャンプでも、福祉避難所の周知について、「台風の発生時等、近くのまちづくり推進センター（旧：地区公民館）の避難所開設の連絡はあるが、福祉避難所については、連絡があったことがない。開設された場合、連絡はどのようにしてもらえるのか」等の意見がありました。福祉避難所の周知、開設の連絡については、別紙2の新聞記事のように、開設後、一般市民が押し寄せ、混乱が生じた事例（熊本県の震災時）などを背景に、福祉避難所の開設、運営に各自治体がまだその手順を明確にできていない状況が推察されます。鳥栖市においても、この状況については同じであり、実際どのような周知を行っていくのか、また、どのような福祉的支援を必要とする人を優先して受け入れるのかなど、基準もまだ明確にはできていないようです。

今回の福祉避難所体験キャンプの企画段階で、どのような人を対象として体験キャンプを実施するのかについても議論になり、なかなか対象者を絞り切れない状況もありました。我々は

基準作りをする側の立場ではありませんが、実際の受け入れ基準の設定そのものが、難しい課題の一つであることが分かりました。しかしながら、必要なプロセスの一つだと思われるので、福祉避難所の周知方法と分かりやすい受け入れ基準の設定は、今後具体的に解決しておかなければならない課題だと思います。

6.3 避難所の受付

避難所の受付については、上記の受け入れ基準の設定とも連動しますが、それを踏まえて、受け入れ時の準備として、「どのような福祉的支援を必要としている人が避難してくるのか」については、予め、予測的な準備は必要だと思われます。

今回の避難所での受付でも、荷物の搬入が同時に行われていたこともありますが、受付時の世帯表記入の作業に手間取ったところがあるようです。施設の受け入れ基準（どのような人を受け入れるのか）に沿って、世帯表の記入要綱、プロセスが設定できるようになると更にスムーズな受付が可能となるものと考えられます。

6.4 食事について

6.4.1 本人（本人家族）の準備するもの

食事については、避難所側で準備できるものは“最低限”とし、できるだけ避難訓練参加者が各自で、必要な食事は持参するよう案内し、参加していただきました。実際、障害の内容や当事者の特性等により、準備できる食事としては、制限が多いのが実情だと思います。従って、本の家族、もしくは本人自身に、避難所で食べられる食事をあらかじめ準備して参加していただくようお願いしました。避難の際に必要な食事を、事前に買い揃えておくことも難しいことだとは思いますが、少なくとも、どういう食事であれば、食べられるのか、避難所で準備できるのか、個別に想定した食事を予め想定しておく（可能であれば、書き出しておく）ことは、必要な準備だろうと思いました。特に、知的に障害を持つ人は、強い偏食の傾向を持つ人もいますので、家族として準備をお願いしたい事項にもなると思います。

とはいえ、具体的には、本人が食べられるものが基本ですが、持ち運びしやすいこと、日持ち等を考慮すると、缶詰、パン、レトルト食品、ふりかけ他、乾燥食品、調理器具としてのキャンプ用の自炊セットは有効だろうと思われました。また、電気を使うポータブルな機械（ミキサー等）等についても、避難の現場でも必要な加工・調理ができるよう、障害の特性によっては、本人（家族）で、準備しておく必要があるように思われました。

6.4.2 受け入れ側（避難所）として、考慮すべきこと

受け入れ側に期待することとしては、上記の通りですが、例えば、今回の参加者の場合、避

難者の特性を考慮した食事の的確な準備はかなり難しいことだと思います。しかし、避難所として確実に準備できることを、予め公表しておくことで、避難者が準備できるものが明確になってくると思います。食事の際の備蓄されている食材（ごはん、インスタントラーメン、他）、使用できる食器、炊事場、電気、ガス、炊き出し用の釜戸、鍋など、実際に準備できるものが明確になっていることが、避難者にとっても有用な情報になると思われます。

また、実際の避難所では、自閉症スペクトラムの障害をもつ避難者が来ることも想定されます。振り返り時の意見にもあったように、集団が苦手な障害を持つ人のための仕切りを作る工夫や、個室の準備等、個別スペースを作るよう想定しておくことも必要な措置としてお願いしたいと思います。

6.5 寝床づくり（居住スペースの確保）について

6.5.1 本人（本人家族）で準備するのも

簡易テント（自立式）のテントの利用は有効であるとの意見が多くありました。実際、簡易に個室が作れるという点では、自閉症スペクトラムの避難者に限らず、一般の方にも有効な方法であろうと思われました。避難所としても準備しておくことも勧めたいと思いますが、避難者側としては、慣れておくことも重要なポイントの一つであり、今回の体験キャンプの目的の一つでもあるので、各自(家族)が避難所で使える程度のテント（2-4人用の自立式テント）の準備は必要な事項として挙げておきます。また、日ごろからキャンプ等にでかけ、テントを使用してみることも、避難を想定した訓練の一つにもなりますので、日ごろから心がけておいていただきたいと思います。

段ボールのベッドは、かなり丈夫にできることが、今回の体験を通して分かりました。パーティションについては、ついたてを支える足元の部分の製作が難しかったので、この部分は訓練が必要と思われました。また、今回は居住スペースに十分な余裕がありましたので、あまり気にはなりませんでしたが、パーティションの高さも、事前の検討は必要だろうと思われました。十分なプライバシーを維持できる高さ、必要な高さはどれくらいなのか、予め確認しておく必要がある事項だと考えられました。

6.5.2 受け入れ側（避難所）として、考慮すべきこと

受け入れ側として、考慮すべきことの第一点は、居住スペースの区画(今回の場合、体育館内)だと思われます。鳥栖市の福祉避難所として指定されている施設において、それぞれの受け入れ可能な人数は設定されています。しかし、その根拠は、ガイドラインで示されている一人当たりの必要な面積として2~4m²とされていることをベースに算出（一人当たり4m²）した受け入れ可能人数であり、種々の要因を考慮すると、実際の受け入れ可能数は変わってくることが考えられます。最初にも述べていますが、福祉避難所の施設としての受け入れ基準を明確にし、想定避難者およびその施設の構造上の特性等を考慮し、そこから各施設独自の受け入れ可能な

人数を考えていく必要があるように思われました。また、障害の特性により、車いすが必要なケース、場合によっては、食事の配給も必要なケース等も出てくるかとおもいます。このケースでは、居住スペースに車いすや配膳用のカートなどが通れるスペースも必要とりますので、区画を考える場合、考慮すべき点の一つとなります。

このように、各施設での受け入れ基準を明確にしたうえで、避難所として必要な居住スペースの区画を予めシュミレートしておく必要があるように思われました。

その他、避難所として準備をお願いしたい事項としては、以下のようなことがコメントとして寄せられました。今後の準備として必要と思われるので、それぞれの意見についてコメントしておきます。

1) 段ボールの準備（現時点で協定締結企業あり）。

段ボールについては、現時点で提携企業があり、調達できる環境のようですが、今回の段ボール以外の規格の段ボールの使い方、その場合のベッドの作り方についても予め想定して、準備(訓練等)は、必要と思われました。

2) 簡易テントの準備。

簡易テントは、本人（家族）が準備しておくものとして述べていますが、避難所としても、受け入れ基準（どのような避難者がくるか）を想定して、準備を検討してもよい事項と考えられました。

3) 屋外のスペースの利用可能性。

避難所の受け入れ基準にもよりますが、福祉避難所の施設外のスペースの活用も避難所を想定する場合、考慮しておく必要があると思われす。外のスペースが使える場合、その場合の活用方法によっては、テントの設置も考えられるので、屋外用のテントも準備事項の一つとして検討してもよいように思われました。

4) 避難者の誘導方法

避難所の居住スペースの区画の設定と併せて、避難者を受け付けてから、その居住スペースまでの誘導方法についても、予め手順、段取りを決めておく必要があるように思われました。あくまでも区画の設定次第ではありますが、スムーズに誘導するために、区画をブロック分けし、どのブロックから誘導していくか、避難者の特性により、誘導するブロックを分けるなどの措置も、予め検討しておく必要があるようにおもわれました。

6.6 余暇、遊びについて

今回の福祉避難所キャンプの目的の一つは、本人たちに慣れさせる事を重要な目的の一つとして考えました。実際の避難所では、遊び場の運営は難しいことが考えられますが、体験キャ

ンプにおいては、その施設（避難所）へ入ること、その場所で食べること、寝ること等、そこで嫌な思い出があると、知的に障害を持つ人など、避難所に入ることそのものを嫌がる可能性があります。この心理的な障壁も実際の避難の際に発生する可能性のある障壁だと思いますので、予め取り除いておく必要があります。体験することにより、また良い印象を持つことにより、実際の避難時の行動が、スムーズになることが考えられますので、体験キャンプでは、楽しく避難所で過ごせる場所を作ること、特に知的に障害のある人(子供)を想定する場合、必要な措置だろうと思われま

す。慣れることも重要な目的の一つとして考えた体験キャンプですので、今後も続けて、実施していかなければなりません。遊びの場、余暇活動の内容は様々だと思いますが、今後の開催においても必要な準備であると考えられます。

6.7 その他の施設設備、準備品等

その他、福祉避難所体験キャンプの実施として、考慮したい点として、以下のようなことがあげられました。まとまった意見にはなっていませんが、実際の福祉避難所の運営及び体験キャンプを実施する際の参考として、検討をお願いしたいと思います。

- 1) 電源及び Wi-fi が、十分に使える設備が必要だと思います。
- 2) 今回は、電力も水道も復旧している前提でしたが、停電状態での訓練も必要ではないか。
- 3) 受付では、事前に避難者の情報が得られるようであれば、得られる情報は事前に得ておくような仕組みも必要。
- 4) 避難所での生活をスムーズに進めるための、避難所での生活に関する注意事項をまとめたチラシの作成、配布。

7. 今後に向けて

今後に向けては、まず、継続的に福祉避難所体験キャンプは実施していくことが大切なことだと思います。今回の体験キャンプは、初めてのことであり、手探りで実施した体験キャンプとなりました。試験的に実施した体験キャンプと言ってもよいと思います。したがって、次年度以降も、引き続き実施していくことで、意義のある試みだったということができると思います。

すべての当事者が参加する体験キャンプ(訓練)は、見える課題が多すぎて、かなりの困難を伴うように思えます。従って、分かる範囲のことから、一つ一つつぶしていくように、経験を積み重ねていくことが最も大切な事であろうと思います。

鳥栖市には、3 か所の福祉避難所が指定されていますが、それぞれの福祉避難所で、同様の体験キャンプが実施され、それぞれの課題を、避難する当事者、避難を受け入れる側の両方で共有していくことが、今後も最も大切なことだと思います。

まずは、「継続して実施していく」というところから始め、試験的で構わないと思いますので、

指定されたそれぞれの福祉避難所で、それぞれ体験訓練が実施されることを切望します。

ただし、“できる範囲”が基本だと思いますので、過度の負担にならないよう持ち回りで実施していくことで構わないと思いますので、少しでも多くの体験訓練がそれぞれで実施されていくことを希望します。

繰り返しになりますが、今回の企画の中でもあらわになった課題の一つが、福祉的支援を必要とする方の特性のタイプが多く、それぞれの特性に合わせた受け入れ側の体制整備は難しいということです。この報告書の中でも述べていますが、それぞれの施設での受け入れ側の基準を設定し、それぞれの特性に合わせた受け入れ態勢を整備していくことで、具体的な課題の幅は小さくなっていくことが考えられます。また、医療的ケアが必要な場合の支援施設、病院等とも連携し、基準作りを進めることが必要な措置の一つのようにも思われます。

受け入れ側(行政側)としても、それぞれの施設での受け入れ能力を考慮した、受け入れ側の基準の明確化は、早い段階で実施していただくことを望みます。

一方、我々の立場からは、福祉避難所体験キャンプは、「やっぱり“慣れる”がいちばん」。知的に障害をもつ避難当事者の場合、初めての場所やいつと違う環境への対応が、いざ避難という場で障壁になってしまうことが考えられます。行ったことのある場所、経験したことのあたるアクティビティであれば、避難する当事者の障壁を低くすることができます。

福祉避難所体験キャンプを継続することで、本人たちが慣れ、家族も実際に避難する場合を想定した準備や日ごろから構築されていく、またそういう生活習慣を作っていくことも可能となると思います。今回試験的に実施した福祉避難所体験キャンプですが、次年度以降も、違う形で実施していただくことを切に希望します。

8. 謝辞

今回、お声掛けに応じていただき、福祉避難所体験キャンプの実施に多大なご協力を頂いた、鳥栖市及び鳥栖市社会福祉協議会に対し、心から感謝申し上げます。

また、今回の体験キャンプの実施に際し、段ボールのご提供を頂いた鳥栖市と協定を結んでいる企業（(株)クラウン・パッケージ、コープ佐賀生活協同組合）様、プログラムの作成等、避難所の運営に対しご指導を頂いた Happy ぼうさいプロジェクトの大久保氏、避難所体験会の情報の提供を頂いた筑後市社会福祉協議会に対しても、改めて、感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

9. 別紙

9.1 別紙 1 (アンケート)

福祉避難所体験キャンプ アンケート

お名前：

Q1.「寝床をつくろう」と睡眠はうまくいきましたか？（満足されましたか？）（1つに○）

(1) 満足 (2) やや満足 (3) どちらとも言えない (4) やや不満 (5) 不満

Q2.「夕食をつくろう」等、食事はうまくいきましたか？（満足されましたか？）（1つに○）

(1) 満足 (2) やや満足 (3) どちらとも言えない (4) やや不満 (5) 不満

Q3.「夜を楽しもう」等、空き時間はうまく過ごせましたか？満足されましたか？（1つに○）

(1) 満足 (2) やや満足 (3) どちらとも言えない (4) やや不満 (5) 不満

Q4.キャンプの内容にどの程度満足されましたか？（1つに○）

(1) 満足 (2) やや満足 (3) どちらとも言えない (4) やや不満 (5) 不満

Q5.今回参加して、良かったことは何ですか？（自由記述）

Q6.もし災害が起こった際、不安なことは何ですか？（自由記述）

Q7.その他、ご意見があればお書き下さい。（自由記述）

質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

福祉避難所 6割公表せず 台風19号

台風19号による死者や行方不明者が出た13都県38市町村で、高齢者や障害者ら災害弱者を受け入れる「福祉避難所」を開設した16市町村のうち、約6割に当たる10市町が開設したことを公表していなかったことが2日、共同通信の集計で分かった。「一般の人が殺到して本当に必要としている人が利用できなくなる恐れがある」という理由でほぼ共通していた。

国は自治体へのガイドラインで住民や支援団体に福祉避難所の情報を周知するよう求めているが、2016年の熊本地震の際には一般市民が押し掛ける問題が起きた。自治体側が周知の弊害を懸念している実態が改めて浮き彫りとなった。

集計は38市町村の担当者への聞き取り取材を基に実施。福祉避難所の利用者は付き添いの家族を含め16市町村で少なくとも計134人だった。

非公表で他の理由も挙げる自治体があった。3カ所を開設した仙台市の担当者は「一般の避難所で生活が困難な人がいた場合に職員が案内する二次的な位置付けなので公表していない」

と話す。長野県東御市は事前に把握している要支援者に「個別に連絡を取ったため」とした。

日本難病・疾病団体協議会の辻邦夫常務理事は「開設しているか分からないと避難もしにくい。開設情報はきちんと周知してほしい」と訴えた。

内閣府の担当者は「各自治体が地域の実情に応じてやっているのでは是正まで求めるのは難しい」と話している。

サツマイモ

サツマイモの輸出が急拡大し、貿易統計によると、2018年の日本からの輸出額は約13億7900万円と08年からの10年で12倍超に膨らんだ。産地がアジアを中心に売り込みを強化し、日本産の甘い味わいが知られてきたためだ。日本であまり消費されない小ぶりのイモも、おやつ感覚で受け入れられている。

農林水産物・食品全体では18年の輸出額が9068億円とこの10年では約1.8倍で、サツマイモの伸びの大きさが目立